

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成21年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年夏に実施している『夕涼み会』は年々地域にも定着しており、ご利用者はじめ地域住民の方々も多く来て下さり、楽しみにされている。施設の方針によりたこやきやかき氷など無償で提供している。施設とご利用者・ご家族・地域の交流の場、施設の日頃の感謝を表す場となっている。準備にはかなりの時間がかかり、職員も業務やボランティアなど大変であるが、かなりの満足感・達成感があり、今後も継続していきたく思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を図るために毎年実施している夕涼み会は参加者も年々多くなっており、地域の行事として定着している。また、家族も多く参加してくれるため、利用者・家族・職員・地域との交流の場となっている。敷地の一角に、利用者はもちろん地域の方にも利用してもらえる美容室をオープンしており、ここでも交流が図られている。管理者及び職員は明るく、気軽に訪問しやすい雰囲気がある。毎日入浴できるようにしており、また敷地内に設置した足湯も楽しむことができる。敷地内にあるデイサービスでのリハビリテーションも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

## ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) こうゆう庵 I

記入者(管理者)

氏名 天崎 るみ

評価完了日

平成21年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者を中心に職員間で話し合いながら、理念を掲げている。その人らしい生活支援を中心に地域との関わりや交流に努めながら理念を実践に生かせるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 基本理念として『自由に地域の中で、自然体でいられる場「新しい我が家」を提供します』と掲げ、さらに運営基本方針5項目を設定して職員間で共有し、実践につなげている。</p>	基本理念がやや概念的で実践の振り返りに活かしにくいと感じられるため、管理者と職員それぞれの思いを話し合い、より具体的な行動目標等を立てて実践につなげていくことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事・夕涼み会など大きな行事には近隣の方に案内状を出し、気楽に出入りの出来る雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議にて地域の行事などの情報をいただき、積極的に参加させていただいている。</p> <p>(外部評価) 管理者はホームのある地域出身ではないが、地元で馴染み、地域との交流が図れるよう、地元の職員を採用している。地域の清掃活動に利用者と一緒に参加するなど、地域の一人としての役割を果たしている。小学校との交流もあり、今後はさらに公民館の文化祭やその他の活動にも積極的に参加して交流を深めていく予定である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 婦人会・老人会などが訪問に来た場合には認知症ケアの対応も話し合っており、できるだけ情報交換するようになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 実際に行った行事報告や反省会などを運営推進会議の 議題に取り上げ、地域の方の意見やアドバイスを伺 い、ご利用者のサービスや次への行事に反映できるよ うにしている。	
			(外部評価) 定期的に運営推進会議を開催し、防災訓練や夕涼み会 についての意見やアドバイスをもらい、サービスの向 上につなげている。	運営推進会議のメンバーがやや固定化しているが、家 族にホームの取り組みを知ってもらうためや、介護相 談員に利用者との橋渡しをスムーズに進めてもらうた め等からも、介護相談員や家族、利用者本人にも参加 してもらうなどのメンバーの広がり期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、積極的に研修会に も参加させていただき、できるだけ情報交換できる機 会を持つよう心がけている。	
			(外部評価) 日頃から、市担当者や市役所支所との連携を図ってい る。家族間のトラブル等でホームでの対応が困難な場 合には、担当者や地域包括支援センターに相談し、ア ドバイスを受けている。また、介護相談員から情報を もらうなど、協力関係を築きながらケアに取り組んで いる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の日中・夜間の行動を把握し、それに基づく 見守りを中心にケアしている。玄関の施錠はせず、ご 利用者の方には居室や共有フロアなど自由に活動して いただいている。『具体的な行為』については職員 ミーティングなどで定期的に確認していきたい。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修会に参加し、参加した職員を中 心に学習会を実施して情報を共有し、拘束しないケア に全員で取り組んでいる。やむを得ない場合は職員か ら管理者に報告し、家族と管理者・職員が話し合っ て適切に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者中心にご利用者の様子観察を第一に、些細な変化も見逃さないよう心がけている。高齢者虐待防止法については今後、職員の勉強会などで取り上げていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会などを実施し、制度に対する理解を深めるよう努めており、活用の申し立てがあった場合には担当の弁護士と相談できる体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関わる場合には管理者・介護主任が必ず同席し、ご利用者やご家族の疑問にすぐ適切に応えられるようにしている。契約後も支払い時などにも積極的にご家族にコミュニケーションをとるよう心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年に数回、ご家族も一緒に行事に参加していただき意見を話し合う機会を設けている。また、支払い時にもご家族の方一人一人に管理者・主任が意見を聞いている。	
			(外部評価) 利用料を集金制にして、月1回はホームに来てもらうようにしている。家族会はないが、夕涼み会等のホーム行事に参加してもらって意見や要望を聞いている。家族が宿泊を希望したことから、いつでも対応できるように簡易ベッドや布団も整備している。また、介護相談員から情報を得たり、職員が日頃のケアの中で利用者の希望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者は会議や申し送りにも参加し、職員と日常的に話す機会を設け、コミュニケーションをとれるよう努めている。収集した情報についてはその都度、検討して働きやすい環境作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 月1回の職員ミーティングに管理者も出席し、職員の意見や提案を聞いている。認知度が進行した利用者の家族への説明を管理者が行ったり、利用者の身体機能に応じて手すりを付けたり、登録職員を数名確保して勤務体制の充実を図る等、職員の意見を反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 管理者は職員個人個人の情報を把握し、生活状況を踏まえ、労働時間や給与など各自が継続して働けるよう環境や条件の整備をなど、ご利用者の生活に合わせ支障のない範囲で実施している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の希望があれば、自由に研修を受けることができる環境にある。現在のところ初任者研修やフォローアップ研修など、計画に従った研修などへの参加はしていない。研修後の報告書は作成し、順次提出する体制になった。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 勤務の関係などから、勉強会への参加はできていない。近隣の施設などへは居宅のケアマネージャーと視察・見学などを行い、情報収集に努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 施設利用までに何度かご本人と面接を行い、話しを聞く機会を持っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用までに直接話を聞いたり、電話連絡などで不安なことや困っていることをお聞きしている。不安な様子な時は、気軽に施設見学に来て頂いて直接お会いするようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 窓口を管理者・介護主任に限定し、正確な情報収集を行った上で、必要時は話し合いを随時設けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に過ごす中で、食事・洗濯・掃除などの家事活動を協力し合うことで、共に支えあう関係作りに努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診や外出、行事など協力していただけることにはご家族に連絡し、対応していただくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の敬老会に参加していただいたり、遠方の方の訪問の際には食事を共にしていただいたりしている。  (外部評価) 家族との外出や帰省を促したり、地元の敬老会への参加を支援している。また、家族や知人が気軽に訪れやすい環境づくりに努め、馴染みの人や場との関係継続につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で利用者同士の関係を把握できるよう話し合い、会話の橋渡しになるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) それまでの関係を尊重し、ケアマネージャーを通じて様子をお聞きしている。契約終了時も何かあった場合はいつでもご相談くださいと声をかけるようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケース記録にはご本人が発言した言葉をできるだけそのまま記録し、思いを理解できるよう話し合いをしている。	
			(外部評価) 日常の会話や行動等から利用者の思いの把握に努め、ケアカンファレンスでも検討している。また、ケアマネージャーや家族からも情報を得るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活歴・サービス利用履歴などをご本人やご家族からお聞きし、アセスメントシートを作成している。プライバシーの関係もあって、家族関係や経済面など深く踏み込んで聞けないことも多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録に一日の様子を記入し、申し送りにて現状を把握するようにしている。きちんと確認した場合には職員がサインするように確認漏れがないように気を付けている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、月初めにケアカンファレンスを行い職員同士でケアプランについての話し合いを設けている。ご家族には支払い時にご意見をいただくようにしている。	
			(外部評価) 担当制は取っていないが、ケアカンファレンスで意見を出し合い、ケアマネジャーが取りまとめて介護計画を作成している。状況が変化した場合はその都度、職員間で検討しながら対応している。利用料支払いで来訪した際や行事参加時等に家族の意見や要望も聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を毎日記録に残しており、職員が申し送りや記録の確認などを行い、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人や家族の状況・相談に応じ、随時検討し対応できる体制にある。新しいサービスや情報なども取り入れながら、土日のデイサービスのフロアの活用や理美容などの新たなサービスも定着している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて地域の協力をいただき、運営推進会議や避難訓練にも外部の方も参加していただき、施設への理解協力が深まる環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時にご本人やご家族からかかりつけ医を必ず確認 し、今後の医療体制について話しをしている。必要時 には施設にて受診介助も行っている。定期的に往診な どもあるので必要に応じて医療が受けられるような環 境にある。	
			(外部評価) 入居時にかかりつけ医を確認し、継続して受診して いる。受診は基本的には家族にお願いしているが、都合 が付かない場合等には職員が同行して支援すること もある。協力医療機関からの往診が週1回程度あり、ま た緊急時にも対応してもらえるよう、連携体制を築い ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を中心に医療面についての情報の確認や申し 送りを行っている。必要時にはすぐに管理者とも相談 できる体制とっており、緊急の受診や往診など対応し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院の際には円滑な治療が受けられるようにサマー リーなどを通じ、情報交換に努めている。お見舞いや様子 伺いに行くことで、ご利用者に安心していただい たり、病院関係者との関係づくりができるきっかけと なっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご利用者の状況を見ながら、重度化した場合などの対 応についてご家族と相談できる体制を作っている。要 介護認定の変更や病院・施設紹介・申し込み、ケアマ ネージャーへの橋渡しなどあらゆる方面からの援助に 取り組んでいる。	
			(外部評価) 現在まで、看取りの経験はない。看取りの指針は作成 しているが、現在は利用者も身体機能が保たれてお り、家族の希望もない。今後は希望があれば方針に そって看取りに取り組む予定であるが、利用者及び家 族だけでなく職員も不安なく対応できるよう学習を深 めていく段階にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急マニュアルに従い消防署の指導を受け、AEDの使用方法や救急救命の訓練等を実施している。今後定期的に専門的な講習を取り入れ、職員の実践力をあげていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、日中・夜間想定し防火訓練を実施している。毎回地域の区長・民生委員・婦人会にも運営推進会議や文書にて日程などをお知らせし、参加していただいている。 (外部評価) 災害時の訓練については、消防署の指導のもと、日中及び夜間を想定して年2回実施している。運営推進会議のメンバーや地元消防団等にも参加してもらうなど、協力を得ている。水害対策のため、ホーム周辺の水路清掃は普段からこまめに行っている。本年3月中にはスプリンクラーの設置が完了する予定となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別ケアを中心に、認知症の程度に関わらず人格や尊厳を重視した言葉かけを心がけている。介護相談員の方にも客観的に評価していただいたり、職員会でも取り上げて話し合いをいしている。 (外部評価) 職員採用時には、プライバシー保護についての誓約書を交わしている。日々の関わりの中で利用者の希望や思いを把握し、一人ひとりの思いを受け止めるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) できるかぎり、事前にご利用者に選択できるよう声をかけ、希望をお聞きするよう配慮している。一度お聞きしても、認知症などで忘れてしまったり、内容が変更しても柔軟に対応したり、もう一度途中で声をかけて確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度は職員の方でメニューを決めて、それに参加するかしないか、他にしたいことなどあれば適宜取り入れ、対応している。その方の体調・生活リズムを重視しながらできるだけ希望に添うようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日、お化粧される方もいらっしゃり、化粧品の購入について家族に連絡するなどその方に応じたおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の前の台拭きやお茶の準備などご利用者といっしょに行っている。ごぼうのささがきや野菜の皮むきなどご利用者にできることはお手伝いしていただいている。お手伝いされるご利用者が負担にならないよう、職員にて配慮している。  (外部評価) 身体的に自立度の高い利用者が多く、食事の下ごしらえや片付け等を利用者と楽しみながら行っている。栄養士の資格を有する職員がおり、カロリーや盛り付けなどのアドバイスも受けている。食器は個別の物ではないが、陶器と同様の重さがあり、破損しにくく、可愛い花柄の強化食器を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量は必ず記録している。水分補給できる時間を午前・午後・食事中などできるだけ多くし、水分摂取量を確保できるよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室の洗面所にて口腔ケアを実施している。声をかけるだけの方や全面的に職員が介助する方々であるが、ケアプランなどにも取り入れて実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄は個人個人の身体状態や精神面を配慮し、日中はできるかぎりトイレでの排泄を心がけて援助している。	
			(外部評価) 昼間はなるべく布パンツで過ごせるよう対応している。利用者の動きや表情等からサインを見つけ、声をかけたりトイレに誘導している。パッドを使用している利用者もいるが、職員が付き添って対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝の一杯の水や体操なども毎日の日課に入れており、特に水分補給に重点を置き、食事の献立など気を配っている。認知症でもご自身でトイレに行かれる場合は、排泄の確認がなかなかとりにくい面もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 月曜日から土曜日まで入浴日と設定しており、個々の体調や気分・順番などを配慮し、お一人おひとり入浴できるようにしている。ご利用者の希望があれば時間帯を配慮して、入浴できる。	
			(外部評価) 利用者の身体状況や希望に応じ、無理強いはないが、基本的に月曜日から土曜日まで毎日入浴できる体制となっている。夜間の入浴を希望する方は現在のところいない。浴室は広く、両サイドから介助できるようになっている。また、天気の良い日には敷地内に設置された足湯を楽しむこともできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調などや午睡の習慣など、その方の生活リズムに合わせて各居室にて自由に休めるような環境である。重度の認知症の方などは職員が体調を見て、居室に誘導して休息を促せるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人カルテにその都度細かく記入し、誰が見てもすぐわかるようにしている。病院からいただく薬の説明もファイリングし、変化があるときには申し送りをきちんと行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や時代背景などを踏まえ、歌謡曲や童謡など音楽などを聴く機会を設けたり、コーヒータイムなどをおやつに取り入れたり、個人の嗜好や気分転換も生活に取り入れ、気分転換をはかっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や家族などとの外出・外泊は自由に出来るように支援している。ご利用者の希望に応じて買い物へ一緒に出かけたり、近くの畑へ農作業や草取りなどにも出かけられるようにしている。	
			(外部評価) 現在はインフルエンザの流行時期であるため、人混みは避けるようにしている。近くの大型スーパーやドラッグストアに買い物に出かけており、お金の自己管理ができる利用者は自分で支払っている。また、畑仕事を楽しんだり、希望時には墓参りにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の認知症の状態や希望により、金銭の所持ができる環境である。個人管理の出来る方に関しては職員が理解し個別に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙に関しては個人が自由に家族とやりとりができるよう支援している。家族からの電話についてもとりついたり、居室に電話をひいているご利用者もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご利用者が過ごしやすいようにキッチン・リビングを中心に居室や浴室・トイレが配置され、採光・生活音にも配慮された設計になっている。玄関先や掲示板には行事の写真を定期的に張り替えたり、ご利用者の作品を展示するなど楽しみの空間作りにも配慮している。  (外部評価) 共用空間はゆったりとしており、落ち着いて過ごせる心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングと居室が隣接しているため、一人になりたいときや個人的なおつきあい・面会などの際には居室に自由に行き来できるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真やクラブ活動などで作った作品などご自身の居室に飾るなどして、ご本人が落ち着く空間作りに努めている。  (外部評価) サイドテーブルや布団などはホームで用意しているが、こたつやイスなど個人が使っていた物を持ち込んでいる利用者もいる。	壁に写真を貼ったところ幻視により恐怖を感じた利用者がいたため、壁への掲示は最小限としているが、白壁だけではやや殺風景であるので、利用者とも相談しながら、幻視を誘発しない風景や花など、優しく暖かい雰囲気の掲示物などで個性を出す工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご自身の居室がわかるよう大きく名前を花の写真と一緒に表示したり、トイレもわかりやすい場所に設置している。リビングを中心にキッチンなど目に付きやすい設計になっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873100154
法人名	有限会社 弘祐会
事業所名	グループホームこうゆう庵
所在地	西条市丹原町寺尾甲31番地9
自己評価作成日	平成21年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年夏に実施している『夕涼み会』は年々地域にも定着しており、ご利用者はじめ地域住民の方々も多く来て下さり、楽しみにされている。施設の方針によりたこやきやかき氷など無償で提供している。施設とご利用者・ご家族・地域の交流の場、施設の日頃の感謝を表す場となっている。準備にはかなりの時間がかかり、職員も業務やボランティアなど大変であるが、かなりの満足感・達成感があり、今後も継続していきたく思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を図るために毎年実施している夕涼み会は参加者も年々多くなっており、地域の行事として定着している。また、家族も多く参加してくれるため、利用者・家族・職員・地域との交流の場となっている。敷地の一角に、利用者はもちろん地域の方にも利用してもらえる美容室をオープンしており、ここでも交流が図られている。管理者及び職員は明るく、気軽に訪問しやすい雰囲気がある。毎日入浴できるようにしており、また敷地内に設置した足湯も楽しむことができる。敷地内にあるデイサービスでのリハビリテーションも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームこうゆう庵

(ユニット名) こうゆう庵II

記入者(管理者)

氏名 天崎 るみ

評価完了日 平成21年 11月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 各職員は理念について話し合い、管理者を中心にご利用者中心に安心して生活していただけるよう取り組んでいる。地域も取り込んだ施設づくりに励んでいる。</p> <p>(外部評価) 基本理念として『自由に地域の中で、自然体でいられる場「新しい我が家」を提供します』と掲げ、さらに運営基本方針5項目を設定して職員間で共有し、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の一員として挨拶や会釈など各職員が気をつけておこなっている。近隣からは野菜の差し入れなどしていただいたり、畑管理などの助言をしてくださっている。夕涼み会などの大きな行事などではかき氷やたこ焼きなど無料にしており、地域にお返しできる機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 管理者はホームのある地域出身ではないが、地元で馴染み、地域との交流が図れるよう、地元の職員を採用している。地域の清掃活動に利用者と一緒に参加するなど、地域の一員としての役割を果たしている。小学校との交流もあり、今後はさらに公民館の文化祭やその他の活動にも積極的に参加して交流を深めていく予定である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設見学などは随時受け付けており、過去にはデイサービスのフロアで介護教室を行うなど認知症に関しての理解を一人でも多くの方にしていただけるよう、これからもいろんな発信をしていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的な運営推進会議の実施により、地域の情報収集のみならず、施設運営・行事などの提案・反省会なども実施し、さらなるサービスの向上のためには欠かせないものとなってきている。年二回の避難訓練の際にもご参加いただき、外からの目での評価をいただいている。	
			(外部評価) 定期的に運営推進会議を開催し、防災訓練や夕涼み会についての意見やアドバイスをもらい、サービスの向上につなげている。	運営推進会議のメンバーがやや固定化しているが、家族にホームの取り組みを知ってもらうためや、介護相談員に利用者との橋渡しをスムーズに進めてもらうため等からも、介護相談員や家族、利用者本人にも参加してもらうなどのメンバーの広がり期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) サービス実施や運営上にて不明な点は必ず市担当者に相談するようにしている。できるだけ研修会や会議にも参加し、市町村とのつながりが持てるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 日頃から、市担当者や市役所支所との連携を図っている。家族間のトラブル等でホームでの対応が困難な場合には、担当者や地域包括支援センターに相談し、アドバイスを受けている。また、介護相談員から情報をもらうなど、協力関係を築きながらケアに取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間は鍵をかけず、職員の見守りにて対応しているが、帰宅願望のあるご利用者が出て行くこともあり、見守りや付き添いなどを強化している。夜間は19時から朝8時まで防犯・安全確保のために施錠している。研修会などにも参加し、身体拘束の理解を深めていきたい。	
			(外部評価) 身体拘束に関する研修会に参加し、参加した職員を中心に学習会を実施して情報を共有し、拘束しないケアに全員で取り組んでいる。やむを得ない場合は職員から管理者に報告し、家族と管理者・職員が話し合っって適切に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については決して起こってはいけないと職員間で注意している。管理者が同一敷地内に居住しており、夜勤時での職員のチェック体制がとれている。具体的な法律については、わかりやすく理解できるような方法を検討中である。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護事業などには職員が個々に学ぶ機会が最近減っており、研修会などに参加し、さらなる理解を深めていきたい。具体的に制度の活用が必要な場合は担当の弁護士に相談し、ご利用者が適切に制度を活用できる体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 面接における段階から、その都度質問がないかお聞きし、管理者・主任レベルで担当し、すぐに返答ができるようにしている。こちらからできるだけ、問いかけする姿勢で再度お聞きしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者はじめ職員がご利用者やご家族と日頃より挨拶を中心としたコミュニケーションを心掛け、相談しやすい雰囲気作りに努めている。相談箱の設置や介護相談員の訪問なども意見をいただく手段のひとつとなっている。  (外部評価) 利用料を集金制にして、月1回はホームに来てもらうようにしている。家族会はないが、夕涼み会等のホーム行事に参加してもらって意見や要望を聞いている。家族が宿泊を希望したことから、いつでも対応できるように簡易ベッドや布団も整備している。また、介護相談員から情報を得たり、職員が日頃のケアの中で利用者の希望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は各会議にも参加し、職員からの声を直接聞く機会を多く持つよう努めている。ご利用者の状況や職員の採用、介護実践などにも具体的に反映できるよう細部にわたり配慮している。  (外部評価) 月1回の職員ミーティングに管理者も出席し、職員の意見や提案を聞いている。認知度が進行した利用者の家族への説明を管理者が行ったり、利用者の身体機能に応じて手すりを付けたり、登録職員を数名確保して勤務体制の充実を図る等、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者が職員一人ひとりの状況を把握し、業務が円滑に進み、各職員が家庭の事情もかかえながらも向上心をもって働けるよう調整に苦心しながらも、環境・条件整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は各職員の資質向上のため、研修を受けることができるよう情報提供などを行なっているが、職員が限られているため計画的な研修体制が十分整っているとはいえない。職員を育てるシステムを具体的に構築していきたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 新しい施設の見学訪問などを通じて、少しずつ交流ができつつある。しかし、具体的なネットワークづくりや勉強会までには至っていないので今後情報収集していきたい。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談についてはいつでも電話や来所などで対応できる体制である。担当ケアマネージャーからも事前の情報収集を行なうことで、ご本人の相談内容がわかりやすくなるように努めたり、声かけや傾聴の姿勢などにより安心感が伝わるような関係づくりを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が主となり、ご家族のご意見をお聞きするよう にしている。毎月の支払いのときに管理者とご家族と 直接会って話ができるということもあり、信頼関係の 構築になっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の話を聞くことから始まり、管理者 や主任など複数の人間で自分の施設では何ができるの か、他の方法はないのか検討するようにしている。日 頃から他のサービスに関しての情報収集なども行い、 サービスの選択の幅が広がるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日常生活を共に過ごすことで共存・共栄できるよう 利用者も含め役割分担が自然とできており、長年の経 験を踏まえたご利用者が活躍される場面も多い。共に 生活を楽しむ姿勢え今後も誠実に優しさを持って支え あっていききたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所時や折に触れて受診をはじめ、外出外泊、買い 物・理美容などご家族でお願いし、対応していただい ているが、遠方であったり複雑な親子関係などもあり なかなか関わりを持ってくださらないご家族もいて、 苦心している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 施設独自では帰省のお願いをご家族にしたり、個別の 面会や地元の敬老会の参加などされる方の支援をして いる。今後、関係継続の支援についてご家族へも理解 していただけるよう促していきたい。  (外部評価) 家族との外出や帰省を促したり、地元の敬老会への参 加を支援している。また、家族や知人が気軽に訪れや すい環境づくりに努め、馴染みの人や場との関係継続 につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 行事や趣味活動などを通じて、各ご利用者の交流の場が多くなるようにしている。認知症の程度により、なかなか難しい面もあり、職員が様子を観察しトラブルにならないよう配慮することも多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 身体状態が悪化し、病院へ入院される方も多く、関係が継続するケースが少ない。ケアマネージャーを通じ、ご家族の希望やご本人の状態に合わせ相談や支援できるよう努めていきたい。入院後亡くなられた場合などには葬儀に参列するなどご縁を大切に考えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話を職員一人ひとりが大切に考え、ご利用者の状況把握に努めている。入所時にアセスメントシートを作成してご利用者の状況をまとめたり、カンファレンスで一人ひとり検討することで理解を深めようとしている。	
			(外部評価) 日常の会話や行動等から利用者の思いの把握に努め、ケアカンファレンスでも検討している。また、ケアマネージャーや家族からも情報を得よう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時の面接や入所後の聞き取り、ご家族との会話の中からの情報収集を行い、アセスメントシートにとりまとめている。複雑な家族関係もあり、踏み込んだ情報収集は難しいが、ケアマネージャーなどからの情報もいただくようにしており、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 月に一回ケアカンファレンスを行い、ケアプラン変更予定の方を中心に個々の変化について話し合う機会を持っている。普段の状態を把握し、変化があればその都度管理者に報告し、情報の共有・確認を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人とのコミュニケーションを中心に要望をお聞きしたり、ご家族には毎月の支払い時にご意見を伺い、カンファレンス・サービス担当者会議を元に介護計画を作成している。ご利用者・ご家族から具体的な要望がなかなか出なくてプランに直接結びつけるのが難しい面もある。</p> <p>(外部評価) 担当制は取っていないが、ケアカンファレンスで意見を出し合い、ケアマネジャーが取りまとめて介護計画を作成している。状況が変化した場合はその都度、職員間で検討しながら対応している。利用料支払いで来訪した際や行事参加時等に家族の意見や要望も聞くようにしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケアの実践やご利用者の日々の生活の様子を主に記録している。わかりやすく、見やすい記録づくりについて、またケアプランの見直しにつながる記録方法を検討していきたい。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 施設での生活支援を中心にデイサービスセンターとの共同行事や足湯などを活用した幅広いサービス提供に励んでいる。ご利用者の状況を中心に柔軟なサービス提供を管理者に相談しながら、柔軟に支援できる体制にある。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議を中心に地域との情報交換や関わりが広がりがつつある。毎年地域の小中学校の運動会の見学に訪問したり、地域の方も来ていただき避難訓練を実施し、まずは地域に施設の状況を理解していただける機会を少しでも多く作ろうとしている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事前面接にてかかりつけ医の確認・希望をお聞きし、 家族を通じての受診・薬の受け取りの協力をいただ いている。施設協力医については週に1回の往診をは じめ、急変時の対応などご利用者が適切な医療を受け られるよう支援している。  (外部評価) 入居時にかかりつけ医を確認し、継続して受診して いる。受診は基本的には家族にお願いしているが、都 合が付かない場合等には職員が同行して支援するこ ともある。協力医療機関からの往診が週1回程度あり、 また緊急時にも対応してもらえるよう、連携体制を築 いている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師などに支援いただいている。職 場内の看護職員などへの連絡・相談体制を構築し、緊 急の受診や応急処置などへの対応を迅速に行なえるよ う体制づくりを行なっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 認知症があるために、環境による大きな混乱が起こ らないよう職員が面会に行くよう配慮したり、医療機 関へはサマリーの早期提出を心掛けている。退院後もス ムーズな受け入れができるよう医療機関・ご家族とも 連絡調整を蜜にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化・終末期のご利用者は現在のところいない。グ ループホームの設備・職員体制・医療機関との連携な ど含め、重度化・終末期のご利用者の支援は現在のと ころ難しい。事業所としてできること、できないこと の見極めを適切に行い、柔軟な対応を基本にご利用 者・ご家族に適切な説明を心掛けている。  (外部評価) 現在まで、看取りの経験はない。看取りの指針は作成 しているが、現在は利用者も身体機能が保たれてお り、家族の希望もない。今後は希望があれば方針に そって看取りに取り組む予定であるが、利用者及び家 族だけでなく職員も不安なく対応できるよう学習を深 めていく段階にある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急マニュアルを作成しており、それに基づく対応を職員ができるよう各ユニットに設置している。救急救命の講習を以前にも消防署の指導に基づき行なったが、今後定期的に行なっていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災時の避難訓練については日中・夜間想定で年2回実施している。地域の消防団員・区長・民生委員・地域住民の方も参加していただき実施している。今後継続して参加いただけるよう地域にも呼びかけていきたい。  (外部評価) 災害時の訓練については、消防署の指導のもと、日中及び夜間を想定して年2回実施している。運営推進会議のメンバーや地元消防団等にも参加してもらうなど、協力を得ている。水害対策のため、ホーム周辺の水路清掃は普段からこまめに行っている。本年3月中にはスプリンクラーの設置が完了する予定となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人ひとりに誓約書を提出してもらい、プライバシーの認識を持ち仕事についてもらっている。ご利用者への声かけについては落ち着いて楽しく過ごしていただけるよう配慮している。職員同士で注意しあえる環境を継続していきたい。  (外部評価) 職員採用時には、プライバシー保護についての誓約書を交わしている。日々の関わりの中で利用者の希望や思いを把握し、一人ひとりの思いを受け止めるよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員からの言葉かけや傾聴などを丁寧に行い、認知症でもご本人の思いや希望が選択できるよう配慮している。ご本人の体調や精神面に配慮しつつ、自己決定につながる対応を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者のペースを中心に一日の生活がゆったりと流れるよう日々のケアの実践に取り組んでいる。限られた人員配置の中でご利用者が安全に安心して生活できるよう柔軟に対応できる工夫を考えている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同一敷地内に理美容室があり、希望があれば自由に行ける環境にある。毎日お化粧されるご利用者も数名おり、希望により化粧品の手配をご家族に依頼している。継続してできるよう支援していきたい。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえなどご利用者と分担して料理をつくっている。気候のいいときには外でバーベキューをしたり、お祭りのお接待を一緒に外のベンチで食べたりと場所や雰囲気づくりなども取り入れている。後片付けも個々の状態に合わせて協力してくださる方も多い。 (外部評価) 身体的に自立度の高い利用者が多く、食事の下ごしらえや片付け等を利用者と楽しみながら行っている。栄養士の資格を有する職員がおり、カロリーや盛り付けなどのアドバイスも受けている。食器は個別のものではないが、陶器と同様の重さがあり、破損しにくく、可愛い花柄の強化食器を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 午前・午後と水分補給の時間を設け、お茶・コーヒータイムを楽しんでいただいている。食事摂取量は毎回記録し、個々で気になる方についてはケアプランにあげ、特に注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、うがいや義歯洗浄などの呼びかけを行い、必要な方については職員が介助している。歯科受診や往診の手配なども必要時には行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握しながら、オムツに頼らない援助を心掛けている。しぐさや動作など絶えず観察し誘導している。生活のリズムが確立できるよう夜間帯の排泄援助には、睡眠を妨げたり、不安定な歩行からの転倒など注意している。	
			<p>(外部評価)</p> 昼間はなるべく布パンツで過ごせるよう対応している。利用者の動きや表情等からサインを見つけ、声をかけたりトイレに誘導している。パッドを使用している利用者もいるが、職員が付き添って対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 適度な運動として朝夕のリビングでの体操を取り入れたり、水分補給などの時間を設けている。個別に体調や持病の管理も合わせ医師とも相談しながら服薬にて便秘予防されている方もいらしゃる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 日曜日以外は毎日入浴を実施している。入浴前には必ずバイタルをはかり体調をみながら、ご本人に声をかけ入浴をはじめています。入浴剤にて温泉気分を味わい、お話ししながら心身ともにゆったりとリラックスし、楽しめる雰囲気づくりにも配慮している。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者の身体状況や希望に応じ、無理強いはないが、基本的に月曜日から土曜日まで毎日入浴できる体制となっている。夜間の入浴を希望する方は現在のところいない。浴室は広く、両サイドから介助できるようになっている。また、天気の良い日には敷地内に設置された足湯を楽しむこともできる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> ご本人の生活リズムを尊重し、居室でも自由に休息をとれるようにしているが、認知症の程度により体調や夜間の睡眠がとれるような配慮を職員が行い、声をかけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の指示に従い、処方があった後は必ず記録し、服薬表にしたがい管理している。薬が変更した場合には、日誌に記入し症状変化についても確認し、職員間の申し送りを確実にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の性格や特技などを日々観察し、日常の家事活動を中心にできること、役割を見つけるようにしている。手芸の小物作り、ビーズ教室など作業療法的なものから、音楽鑑賞・詩の朗読・読書・畑作業など幅広く柔軟に取り入れている。ご利用者の意見を尊重し、無理のないようお誘いしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候のいいときには畑に行き作業したり、収穫したり、また散歩が出来るように畑周辺の通路を整備している。家族による外出・外泊にもその都度受け入れており、施設においてもドライブや買い物などの機会を持つよう配慮している。高齢の方は外に出ることも嫌がられるため無理のないよう個別に対応している。 (外部評価) 現在はインフルエンザの流行時期であるため、人混みは避けるようにしている。近くの大型スーパーやドラッグストアに買い物に出かけており、お金の自己管理ができる利用者は自分で支払っている。また、畑仕事を楽しんだり、希望時には墓参りにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自身で金銭管理されている方もおり、理美容代などご自身で支払いをする機会などを持つようにしている。他のご利用者とのトラブルにならないよう、認知症の症状を理解しながらも制限のしすぎないように配慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を居室に設置しお話しされる方もおり、携帯電話などの使用を家族とも相談のうえ許可している。ご家族からの郵送物や手紙などが届くと、お礼の電話などの支援など職員側から声をかけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関の入り口などのスペースやリビングの掲示板にはご利用者の行事の写真や手芸などの作品を掲示し、落ち着ける環境作りを行っている。施設全体の間取りがゆったりと大きく作られているので開放感があり、ご利用者もリビングでくつろがれることが多い。  (外部評価) 共用空間はゆったりとしており、落ち着いて過ごせる心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングの一角にソファを設置し、ご利用者同士が個別に過ごせる空間を作っている。畳スペースでは洗濯物の仕分けをしたり、手芸したり多目的に使用している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時や季節の変わり目の衣類の入れ替えなどのご家族とも相談し、在宅での馴染みの物を持参していただくよう依頼している。ご家族の写真を飾ったり、ご自身の手芸や工作の作品を置いたりして落ち着ける空間作りができるよう援助している。  (外部評価) サイドテーブルや布団などはホームで用意しているが、こたつやイスなど個人が使っていた物を持ち込んでいる利用者もいる。	壁に写真を貼ったところ幻視により恐怖を感じた利用者がいたため、壁への掲示は最小限としているが、白壁だけではやや殺風景であるので、利用者とも相談しながら、幻視を誘発しない風景や花など、優しく暖かい雰囲気のある掲示物などで個性を出す工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室、そして居室などわかりやすく大きい表示にしている。特に居室については他のご利用者とのトラブルにならないようご本人の氏名を目につく高さに表示しているが、認知症もあり職員が配慮して目配り・気配りをする必要がある。	